

確かな学力を支える「学びに向かう力」の育成

～読解力の向上を基盤とした学習指導を通して～

平成29年度 大津町小中学校共通実践事項

- (1)話し手に体を向けて聞く (2)「めあて」と「まとめ」の明示
(3)家庭学習の習慣化 (4)県学力調査に向けた課題克服プリントの計画的活用

9月10日(月)
徳淵

前期後半もスタートして、2週間が過ぎました。研究発表会まで残り1ヶ月半。低・中・高学年部での授業検討も深まりが出てきたのではないのでしょうか。

さて、今回は徳淵の実践の一つを先生方に紹介します。少しでも先生方の授業づくりのヒントになれば幸いです。

領域は数と計算。今回は子どもたちに「意味はわかるけど、それってどんなときに使うの?」という考え方を身につけさせたいと思い、単元に入りました。

4年生 算数 「式と計算の順じょ」 授業の概要：交換法則・結合法則・分配法則を用いて、計算を工夫する。

前時に $\square + \bigcirc + \triangle = \square + (\bigcirc + \triangle)$ と $\square \times \bigcirc \times \triangle = \square \times (\bigcirc \times \triangle)$ を指導した際・・・

C：これ、いつ使うの？

T：いつ使うと思う？きまりを使って、後ろから計算したいときってどんなとき？

C：後ろからしたいなーって思う時じゃない。

C：それがどんな時かって考えてるんだよ(笑)

C：後ろからすると、簡単になるとき！

C：あ————！(と、いいつつ、実際の問題場面は浮かんでいない様子。)

T：じゃあ、それってどんな計算？

C：えーと、 $9 \times 5 \times 2$ ！

T：なんで？

C： $5 \times 2 = 10$ だから、きりのいい数ができる！

本時は、加法の結合法則による計算の工夫と乗法の結合・分配法則による計算の工夫です。

$$\rightarrow 47 + 76 + 24 = 47 + (76 + 24) \quad \rightarrow 25 \times 12 = 25 \times 4 \times 3$$

前時までを生かして、本時は「工夫して計算する」という問題で見られる表現をめあてとして提示してスタート。

「工夫して計算する → かんたんにしたい → 100や10などきりがいい数 → 計算のきまりを使う」

という、前時までの考え方からスタートしました。

次頁の板書の③まで、リズムよく進め、ここで一旦立ち止まりました。 $25 \times 4 = 100$ を先に確認させたかったからです。「かんたんにしたいから、10や100などをつくる」という思考をベースに進んでいたのです。

「20×5みたいに100になる計算って他にあるかな？」

と、いうだけで、50×2, 5×20が出ました。案の定25×4と4×25は最後に出てきました。

そこで④をやってみて、次に⑤25×36にいきました。本時の山場の問題です。

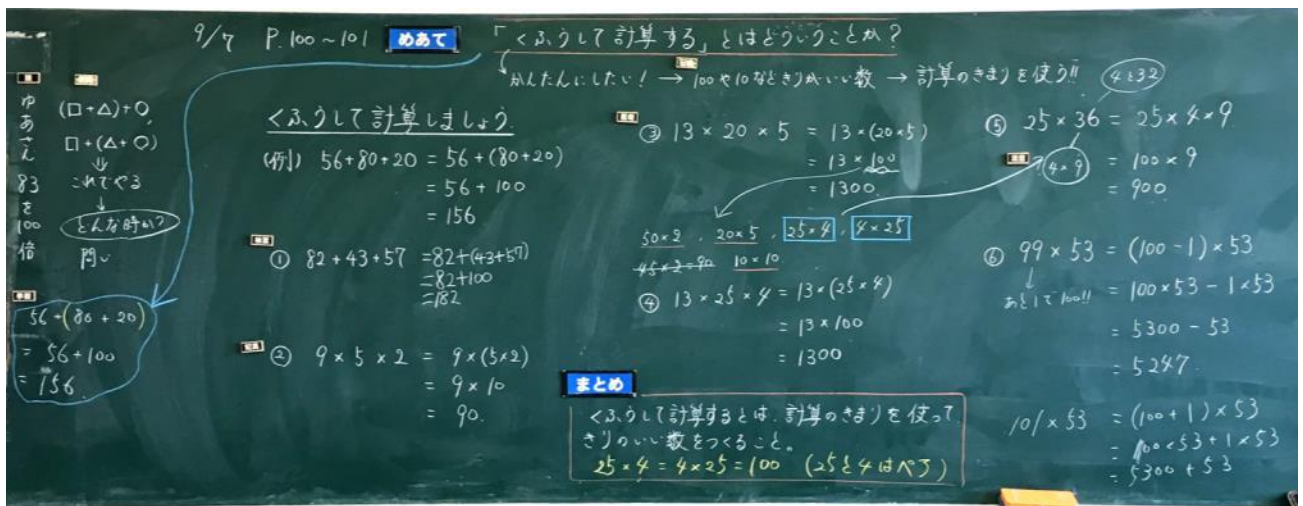
子どもの思考は25×4を作り出すところにいきました。そこで36から4を作り出すという流れに当然ながら向かいます。最初は「36を4と32」にするとなります。この思考はていねいに取り上げます。「25に対して、4を作る」という思考は、数学的に価値があるからです。しかし、結局25×32が出てきて、かんたんじゃないから×。

じゃあ、36から4って作れない・・・というところで、ある子どもが4×9とぼそっとつぶやきました。ここで、一気に子どもたちは25×36=25×4×9を作りました。

ふり返ってみて・・・最後に子どもたちに問題作りをさせてみるとまた深い理解を得られたのかなと思います。

数と計算の領域は、子どもたちが将来使うことがないものがほとんどです。数学の世界では使いますが、実際の生活ではもうスマートフォン等で手軽に計算できます。その点を考えると、数と計算の学習の中で計算技能の定着とともに、「何を考えさせるか」、「どんなものを見せてあげるか」を考えるべきだと思います。

ちょっと参考にしてみてください!!!



「めあて」「まとめ」の明示はできていますか？
室小全体で常に意識して取り組んでいきましょう！